



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2016.12) 平成28年度:27-28.

大学生におけるアルコール摂取と関連要因に関する研究

井深 純志, 山川 楓太, 横山 佑太

大学生におけるアルコール摂取と関連要因に関する研究

井深純志 山川楓太 横山佑太

(指導：長谷川博亮、石川千恵)

緒言

アルコール依存症は、厚生労働省研究班によると2013年にはICD-10診断基準によるアルコール依存症者の推計数が109万人と過去最高値が示され¹⁾、予防法などの教育がなされている。

アルコールは、嗜好品以外にストレス対処法としての側面をもっている。飲酒行動はきわめて安易で手っ取り早い、合法的なストレス・コーピングの便宜的な手段²⁾とされている。中高年は若年層に比べアルコール血中濃度が上昇しやすく、アルコールの影響を受けやすい。そのため、アルコール依存症に対する教育や治療に関する研究は中高年を対象としたものが多い。

一方で、飲酒を始める年齢が若いほど、将来のアルコール依存症の危険性が高くなる³⁾と指摘されている。しかし、先行研究において、若年層を対象とした研究や予防介入というものが少ない。そのため、若年層に対してアルコール摂取に関する教育を行うことにより、アルコール依存症の予防につながるのではないかと考えられる。

以上のことから、飲酒開始年齢の大学生のアルコール摂取と関連要因を明らかにすることを目的とする。そして、その結果に基づき大学生に対するアルコール依存症の予防について考察する。

方法

1. 研究デザイン

本研究は、量的研究である。

2. 研究対象

医療系大学に在籍する医学科3～4年生240名、看護学科3～4年生120名、計360名を対象者とした。

3. 調査方法及び調査期間

アンケートは無記名自記式アンケートを用いた。データ収集期間は平成28年8～9月とした。

4. 調査内容

個人属性、アルコール依存度、外的・内的統制、コーピングを項目とした。個人属性は、学科、学年、性別、生活、食事、娯楽、学生生活、飲酒に関する13項目とした。アルコール依存度は、新久里浜アルコール依存症スクリーニングテスト⁴⁾を用いた。外的・内的統制は鎌原ら⁵⁾が作成したLocus of Control尺度を用いた。コーピングは尾関⁶⁾が作成した自由記述と3下位尺度(問題焦点型5項目、情動焦点型3項目、回避・逃避型6項目)からなるコーピング尺度を用いた。

5. データ分析方法

本研究対象者を学科、学年、性別の3項目で割合を算出した。また、新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストの合計得点の分布を男女別に示した。新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストの合計得点の分布を正常群0点、要注意群1点以上の2群に分けた。2群と各属性の関

連については、カイ二乗検定を用いた。さらに、2群とLocus of Control尺度の下位尺度(外的統制、内的統制)、コーピング尺度の下位尺度(問題焦点型、情動焦点型、回避・逃避型)との差を算出するためMann-WhitneyU検定で群間比較を行った。統計ソフトにはIBM SPSS22 for Windowsを用いた。

6. 倫理的配慮

研究対象者に口頭及び書面で研究目的、倫理的配慮について示した。アンケート用紙については無記名自記式とし、個人が特定されないよう配慮した。また、拒否する権利があること、回答したくない項目については回答しなくてよいことを示した。さらに、データの保存方法、破棄方法について説明した。アンケート用紙配布後1週間の回収期限を設け、自らの投函をもって最終同意とした。

結果

342名に配布し、274名の回答を得た(回収率80.1%)。そのうち、アンケート用紙のすべての項目に回答した243名(有効回答率88.7%)を分析対象とした。

1. 対象の属性

研究対象者の属性を表1に示す。学科は、医学科が152名で62.6%であった。性別は、女性が141名で58.0%であった。

表1 対象の属性

項目		N	%
学 科	医学科	152	62.6
	看護学科	91	37.4
学 年	第3学年	132	54.3
	第4学年	111	45.7
性 別	男性	102	42.0
	女性	141	58.0

2. 新久里浜アルコール依存症スクリーニングテスト(図1、図2)

研究対象者の新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストの合計点と分布を図1、図2に示す。

男性は、正常群45.6%、要注意群54.4%であった。女性は、正常群68.8%、要注意群31.2%であった。

3. 新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストと各個人属性の関係

新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストの正常群及び要注意群の2群と各属性の関係には、カイ二乗検定を用いた。その結果、生活、食事、外食、遊ぶ頻度、遊びの内容、お小遣い、アルバイト、部活・サークルとの関係には男女ともに有意差は認められなかった。

さらに新久里浜アルコール依存症スクリーニ

ングテストの合計点と飲酒頻度との関係においては、男性 ($r = 0.358, p < 0.001$)、女性 ($r = 0.418, p < 0.001$) 有意な正の相関が認められた。

また、個人属性の「遊ぶ頻度」と「飲酒頻度」との関係においては ($r = 0.432, p < 0.001$) 有意な正の相関が認められた。

4. 新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストとコーピング尺度、Locus of Control 尺度との関係

新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストの2群とコーピング尺度の3下位尺度(問題焦点型、情動焦点型、回避・逃避型)には男女ともに有意差は認められなかった。

さらにLocus of Control 尺度(外的統制、内的統制)には男女ともに有意差は認められなかった。

考察

1. 大学生の男女の飲酒状況

本研究の対象者は、大学生の中でも飲酒が法律で認められる年齢となった飲酒開始時期に着目した。飲酒が可能となって2年以内にも関わらず、男性54.9%、女性31.2%が新久里浜アルコール依存症スクリーニングテストのアルコール依存症要注意群となっている。

男性は半数以上が要注意群であった。そのため、特に、男性については、法律で認められる以前の未成年の段階から、飲酒との付き合い方を考えていくことのほかに、アルコールの知識に触れていく教育が必要ではないかと考えられる。

また、藤岡ら⁷⁾の研究によると女性の36.4%がアルコール依存症要注意群となっていることや、女性は男性よりも短期間でアルコール依存症につながるという報告⁸⁾がある。一般的に女性に対するアルコール依存症の認知度は男性に比べて少ないが、本研究結果や先行文献から女性の約3分の1が要注意群となっている。そのため、女性に対してだけでなく周囲にも、アルコール摂取の意識・知識についての啓蒙活動により認知度を高める必要があると考えられる。

2. 大学生の飲酒に関連する要因

新久里浜アルコールスクリーニングテストによるアルコール依存度とコーピング尺度、Locus of Control 尺度との有意差は認められなかった。この結果から大学生はアルコールを対処の手段として用いていないことが考えられる。一方、アルコール依存度と飲酒頻度に有意な正の相関が認められた。また、遊ぶ頻度と飲酒頻度との間に有意な正の相関が認められた。男女とも飲酒する友達が多いほど、飲酒頻度が多いという報告⁹⁾がある。このことから、大学生の飲酒は、ストレス・コーピングの手段としてではなく、友人や先輩など、身近な人間関係を構築する手段であると考えられる。

以上のことから、大学生にとって、飲酒の機会や飲酒の回数はアルコール摂取における注意喚起の一つの指標となることが考えられる。

謝辞

本研究にご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

参考・引用文献

- 1) 厚生労働科学研究成果データベース
<http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201315050A#sel>, (2016.11.24 10:20)
- 2) 白倉克之 (1998): ストレス・コーピングと飲酒行動, 心身医, 38 (5), 302-308.
- 3) Grant BF, Dawson DA (1997): Age at onset of alcohol use and its association with DSM-IV alcohol abuse and dependence: results from the National Longitudinal Alcohol Epidemiologic Survey, J Subst Abuse, 9, 103-110.
- 4) 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター アルコール症スクリーニングテスト
<http://www.kurihama-med.jp/alcohol/index.html>, (2016.6.25 17:00)
- 5) 鎌原雅彦, 樋口一辰, 清水直治 (1982): Locus of Control 尺度の作成と, 信頼性, 妥当性の検討, 教育心理学研究, 30, 302-307.
- 6) 尾関友佳子 (1993): 大学生用ストレス自己評価尺度の改訂—トランスアクションナルな分析に向けて—, 久留米大学大学院比較文化研究科年報, 1, 95-114.
- 7) 藤岡奈美, 小野富美子 (2013): 女子大学生の飲酒行動に関する実態調査—飲酒環境とアルコール依存度の関係, 母性衛生, 53, 4, 478-486.
- 8) 厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト eヘルスネット
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/alcohol/a-05-003.html> (2016.11.3 16:37)
- 9) 安藤美華代 (2010): 未成年大学生における飲酒と心理社会的要因の関連, 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 143, 47-55.

(%)

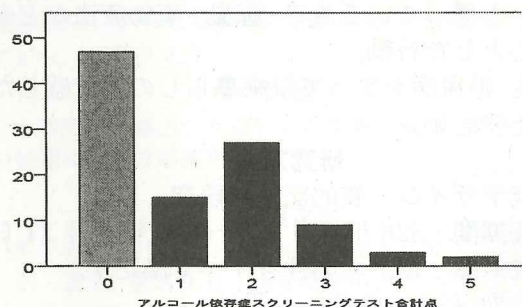


図1 新久里浜アルコール依存症スクリーニングテスト合計点 (男性)
(%)

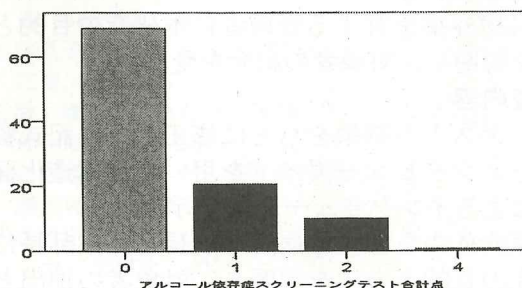


図2 新久里浜アルコール依存症スクリーニングテスト合計点 (女性)